

## 「グアム派遣を体験して」

湯田 彩月

グアムに出発する前、グアムでどんなことが体験できるのだろうという期待とグアムでの生活をきちんとおくれるかという不安で胸がいっぱいでした。

最初に言った水族館で、周りの人たちは英語を話せるのに私は英語が話せず、なかなか上手くコミュニケーションがとれませんでした。さらに私はすごく緊張していたので自分から話し出すことができず、なかなか会話が続きませんでした。相手の子が話している英語も難しく、必死に聞き取ろうと努力しましたが結局わからず、不安がつのるいっぱいでした。

2日目、3日目と相手のカウンターパートの子とうまく会話することができず、自分はなんのためにグアム来たのか、なぜ私なんかがここにきてしまったのか、もっとふさわしい人がいたんじゃないか、と思い悩むようになりました。ほかの人と話しているほうが楽しそう、話しかけて通じなかったらどうしよう、そもそも私とあまり話したくないんじゃないか？とどんどん思考はネガティブになっていきました。リーダーさんたちに声をかけてもらい、アドバイスをもらい、勇気を振り絞ってあなたとたくさん話したい、もっといろいろなことを教えて欲しいと伝えると「OK」答えてくれました。その時を境にカウンターパートの子がたくさん話しかけてくれるようになりました。チャモロ語を教えてもらったり、これは何ていうの？これから何するの？一緒にゲームしよう！折り紙一緒に折ろう！自分が持ってきたお菓子を一緒に食べたり、他愛もないことをたくさん話しました。自分からもはなしかけたり、質問したりできるようになったので本当によかったなと思います。もしあの時相手の子に気持ちを伝えていなかったら、話せないまま日本に帰ってきていたら、こんなにたくさん話せなかったと思うし、グアムに来てよかったと思えていないと思います。私が今回の派遣で、言語が違うだけでこんなに相手の子に自分の気持ちを伝えることは大変なんだということを感じました。もちろんジェスチャーを使うと相手に伝えたいことが伝わることもあります。でも、やはり自分の言葉で伝えないと伝わりません。何度もチャレンジしていくうちに新しい単語を知ることができたり、このときはこんな英語を使えばいいんだ、と吸収できるものがありました。何事にもチャレンジすることは大切なんだと改めて感じました。

親身に話を聞いてくれたリーダーさんや先生、今回このような機会を与えてくれた、チャンスをくれたグアム委員会の方々、関わってくれた全ての人に心から感謝しています。4月の末頃にグアムの子が日本に来た時には、自分がグアムに行ってやってもらったこと以上のことが自分たちでできるようにしたいと思います。



派遣生3人海で